

# 事業計画及び成長可能性に関する事項



株式会社中村超硬  
(証券コード:6166)

2022年5月

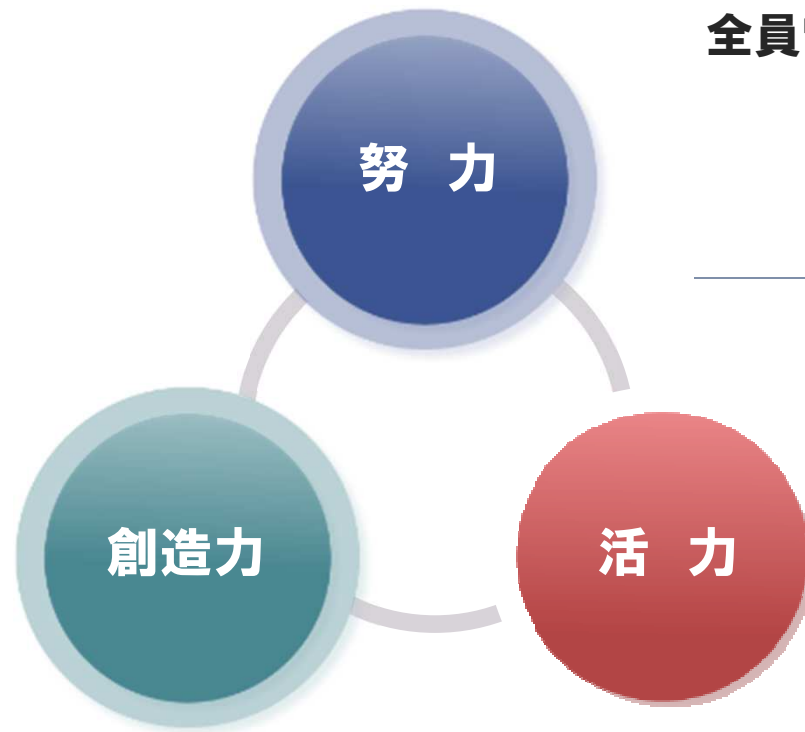
# INDEX

---

1. 会社概要
  2. 当社の強み・特長
  3. 事業の概要
  4. 成長戦略
- Appendix
-

# 1. 会社概要

会社名	株式会社中村超硬			
代表者	代表取締役社長 井上 誠			
創業／設立	1954年10月／1970年12月			
本社所在地	〒593-8323 大阪府堺市西区鶴田町27-27			
資本金	349百万円(2022年3月末)			
役員構成	代表取締役社長	井上 誠	取締役(社外)	京谷 忠幸
	専務取締役	三上 正幸	取締役(社外)	大山 隆司
	取締役	藤井 秀亮	常勤監査役(社外)	戒能 眞介
	取締役	川岸 悟史	監査役(社外)	松村 安之
	取締役	井上 紘章	監査役(社外)	中川 雅晴
	取締役	田植 啓之		
従業員数	連結：163名 単体：89名（2022年3月末）			
子会社	日本ノズル株式会社 上海那科梦乐商贸有限公司(中国現地法人)			



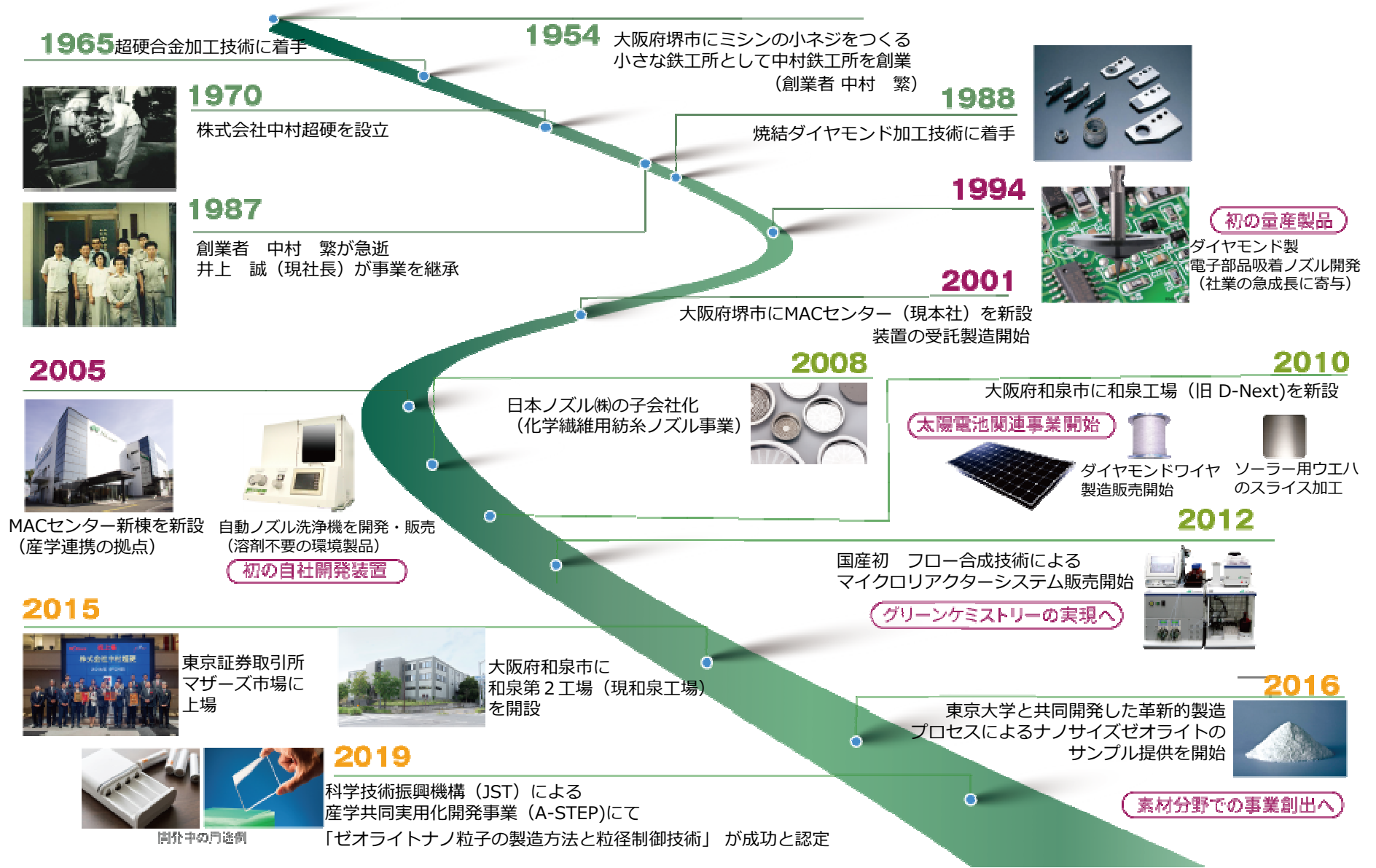
全員営業、全員製造、全員参加の経営をもって  
ものづくりのエキスパート集団となり  
夢ある未来をともに育てる

- ① お客様、協力会社との共栄のために
- ② 従業員とその家族の幸せのために
- ③ 社会と地球環境への貢献のために

# 事業所案内



# 会社沿革



## 2. 当社の強み・特長



## ✓ 開発ポリシー

先端技術分野におけるモノづくりの課題解決を目指す

## ✓ 当社の強み・特長

産学官連携による  
技術開発・  
新規事業の創出

ものづくりに  
対する  
チャレンジ精神

泥臭い  
現場技術を重視

## 3. 事業の概要

当社グループは、以下の4つの事業セグメントを主な事業として取り組んでおります。

## 特殊精密機器事業

- 超合金やダイヤモンド等、高硬度材料を用いた実装機用ノズル、耐摩耗治工具の設計・製造・販売
- 実装機用ノズル洗浄機やマイクロリアクターシステム等の開発・製造・販売

## 化学繊維用紡糸ノズル事業

- 化学繊維用紡糸ノズル及び周辺部品の設計・製造・販売
- 不織布製造装置、不織布関連ノズル等の設計・製造・販売

## 電子材料スライス周辺事業

- 半導体向けダイヤモンドワイヤの開発・製造・販売
- ダイヤモンドワイヤ製造装置の開発・販売

## マテリアルサイエンス事業

- ナノサイズゼオライトの開発・販売

## セグメント別 売上高・営業利益

### 売上高

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	前期比
特殊精密機器事業	768	922	20.0%
化学繊維用紡糸ノズル事業	3,023	3,003	△0.7%
電子材料スライス周辺事業	5	69	1,271.2%
マテリアルサイエンス事業	8	42	412.6%
合 計	3,806	4,038	6.1%

### 営業利益（損失△）

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	前期比
特殊精密機器事業	42	115	173.3%
化学繊維用紡糸ノズル事業	644	678	5.3%
電子材料スライス周辺事業	△410	△383	-
マテリアルサイエンス事業	△155	△142	-
調整額	46	43	△6.5%
合 計	167	311	85.9%

✓ 耐摩耗部品

硬脆材料の超精密加工技術を基盤に、焼結ダイヤモンド（PCD）や超合金、セラミックスなど高硬度材料を用いた耐摩耗性の高い長寿命部品の製造

超高硬度素材を精密に加工

ダイヤモンド	セラミックス
超合金	耐熱素材 タングステン モリブデン インバー
	その他素材 チタン系素材 ステンレス系材料 鉄系材料

自動車・ベアリング加工用設備部品

工作機械・治工具用PCD製部品

高精度工作機械



→ ベアリング



→ 自動車



✓ 実装機用ノズル（電子部品吸着ノズル）

パソコンやスマートフォンなどのデジタル家電に使われているプリント基板。これに電子部品を装着する実装機の「吸着ノズル」を製造

摩耗しやすいこの先端部分

焼結ダイヤモンド(PCD)

セラミックス

微小の電子部品を吸着

耐久性  
実装率向上

※写真はイメージです。

実装機（チップマウンター）



**耐摩耗部品**

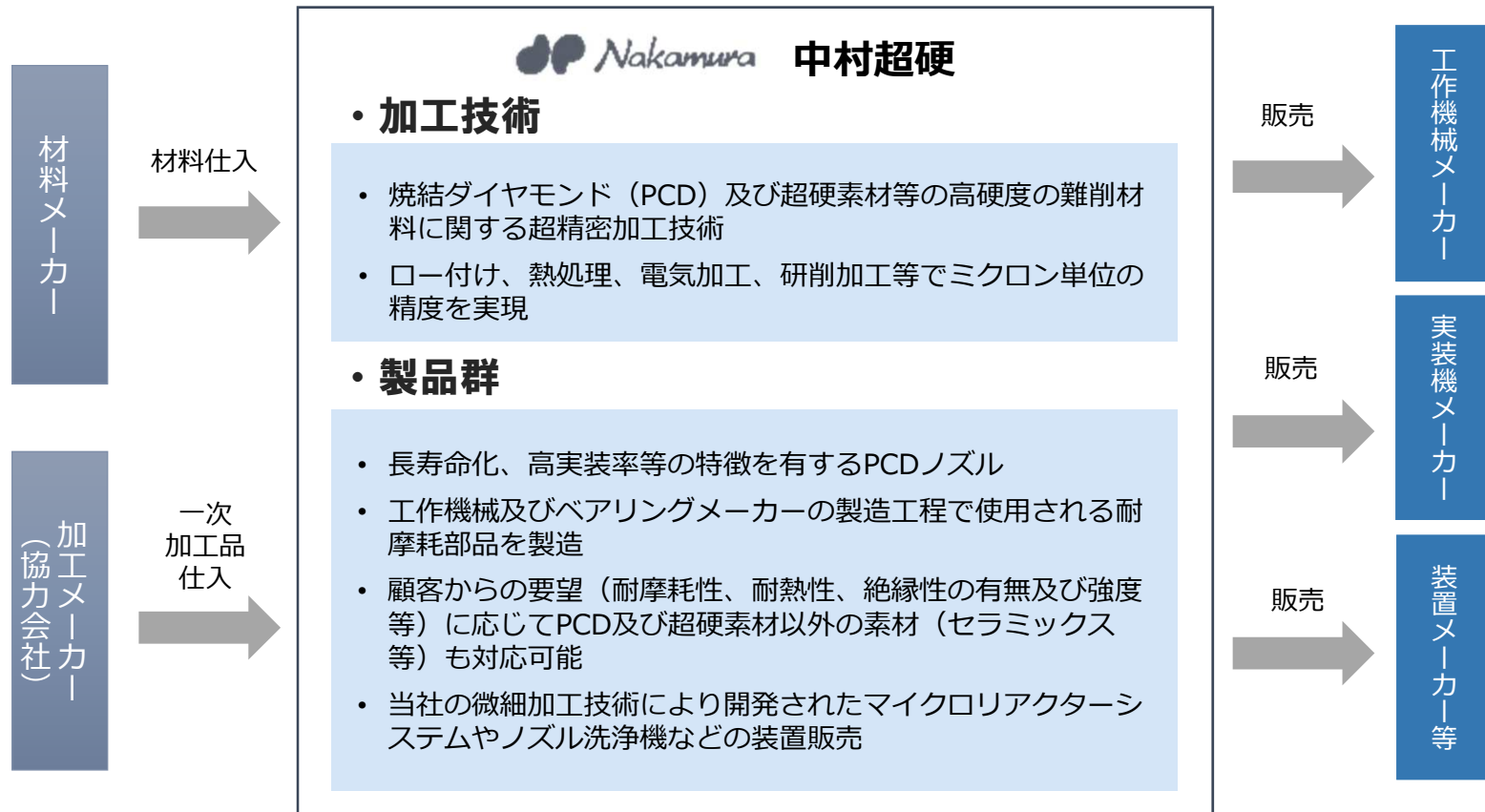
工作機械メーカーに製品を販売、  
大手ベアリングメーカーで使用される



**電子部品**

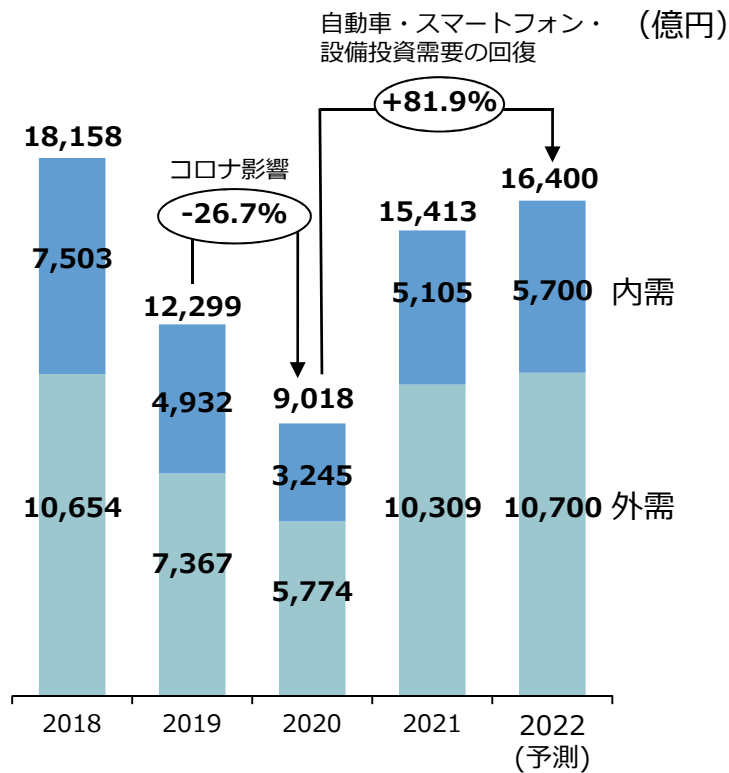
実装機に装着される吸着ノズルを一貫製造、  
実装機メーカーに販売

**特殊精密機器事業バリューチェーン**

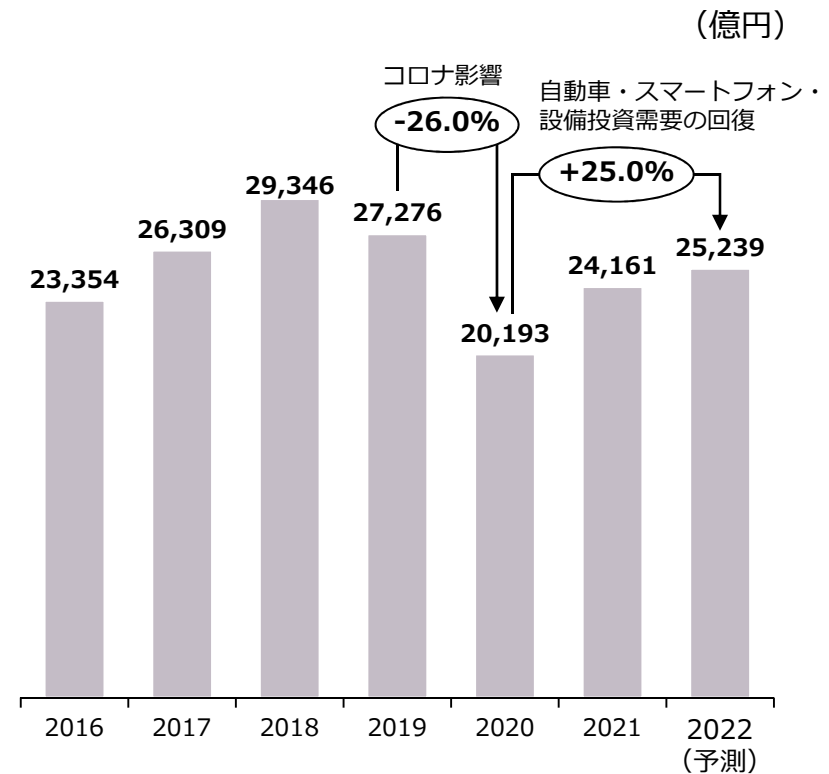


耐摩耗部品が使用される工作機械市場は、足元コロナ影響により前年比7~8割程度まで縮小。  
今後スマートフォンや自動車需要、設備投資需要と共に回復が見込まれる。

国内の工作機械の受注\*1,2



国内の工作機械の生産\*3



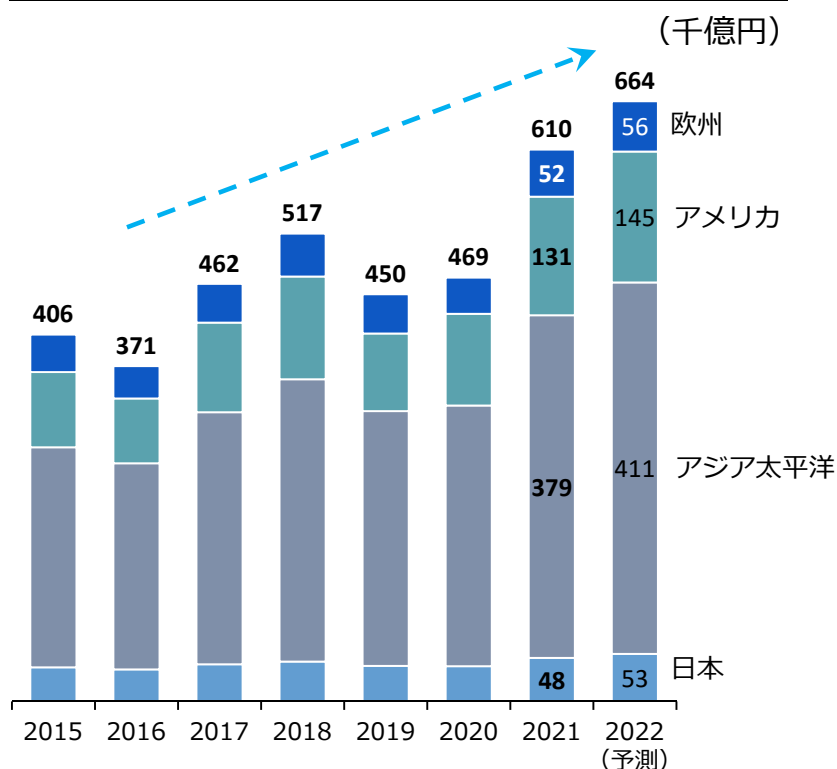
\*1: (受注実績) 一般社団法人日本工作機械工業会 工作機械統計データ

\*2: (受注予想) みずほ銀行産業調査部 2021年12月発行 主要産業の需給動向と短期見通しレポート

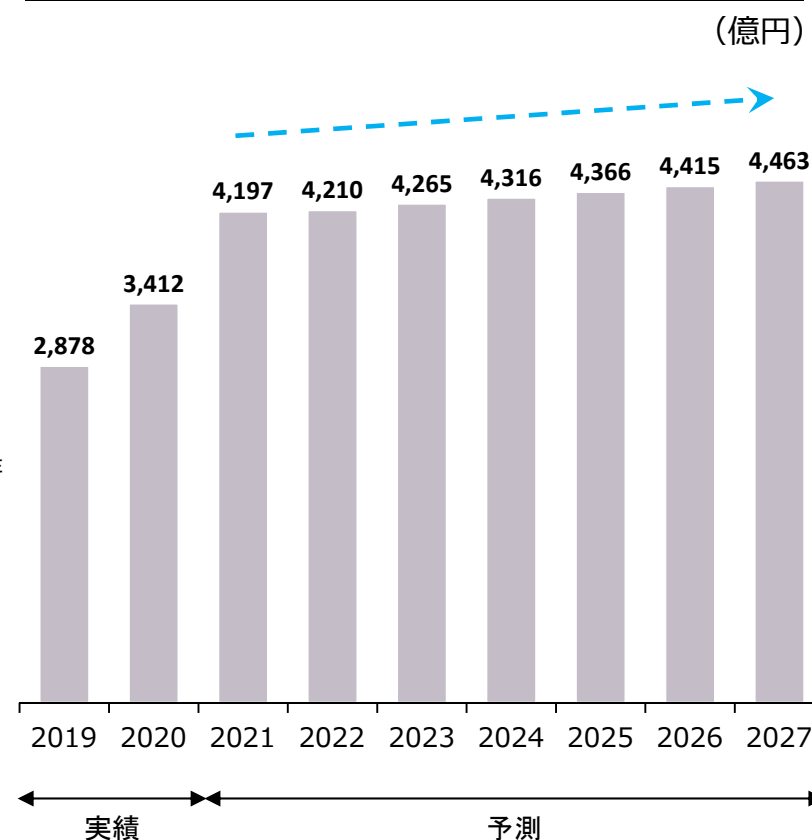
\*3: (生産) Euromonitor Machine tools Production ※USDドルを2021年までは各年平均レート、2022年は2021年平均レートで日本円換算

実装機関連市場は、5G普及やリモートワーク拡大等ライフスタイルの変化が需要を押し上げ、成長が見込まれる

世界の半導体市場規模の推移\*1



国内の実装機市場規模の推移\*2



\*1:JEITA 世界半導体統計データ

\*2:富士キメラ総研 2021エレクトロニクス実装ニューマテリアル便覧



実装機の吸着ノズルを製造、先端に焼結ダイヤモンド（PCD）を用いることで  
耐久性のみならず実装率を向上

	中村超硬の得意分野	他社の得意分野	
	PCD ノズル	セラミック ノズル	スチール ノズル
耐摩耗性	メンテナンス負担軽減 チップ極小化に対して強み	○	×
保持力 (実装率)	<b>極小サイズでも高い実装率</b>	△	○
特注対応 (カスタマイズ性)	加工難度が高い	△	◎
精度の高さ	ミクロン単位の精度	△	◎
初期費用 (イニシャルコスト)	研削加工が主で金型不要	△	◎
量産コスト (ランニングコスト)	型打ち不可	◎	○
納期の短さ	難加工で時間を要す	△	◎

地場企業のみならず  
全国の大手企業からの  
受注に対応

精密加工技術及び  
多種多様な加工設備を有し  
生産能力が高い

当社事業の強み・特長

焼結ダイヤモンド(PCD)の  
精密加工技術を保有  
多品種小ロット生産に対応可能

当社サプライチェーンにより  
一貫した対応が可能

✓ 化学繊維用紡糸ノズル

化学繊維の製造過程で用いられる  
「紡糸ノズル」の製造・販売



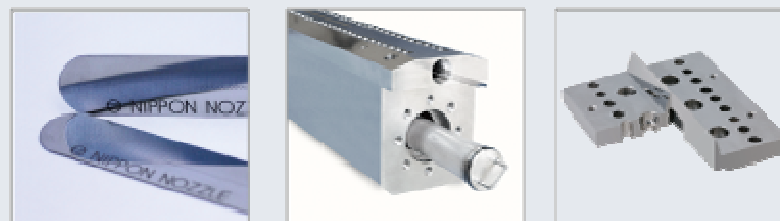
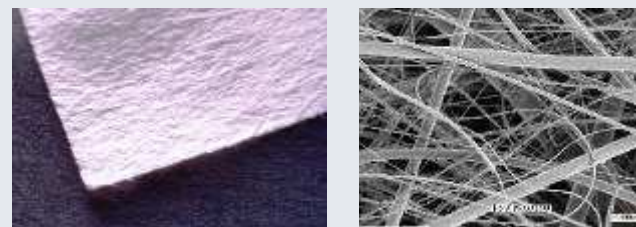
紡糸

化学繊維の原料の液体を  
小さな孔から押し出して  
糸状にします。

紡糸ノズル製品は  
ミクロン単位の  
超精密加工が必要

✓ 不織布ノズル・不織布製造装置

спанレースノズルやメルトブローン生産設備など、  
不織布製造に関連する製造部品の開発・製造・販売

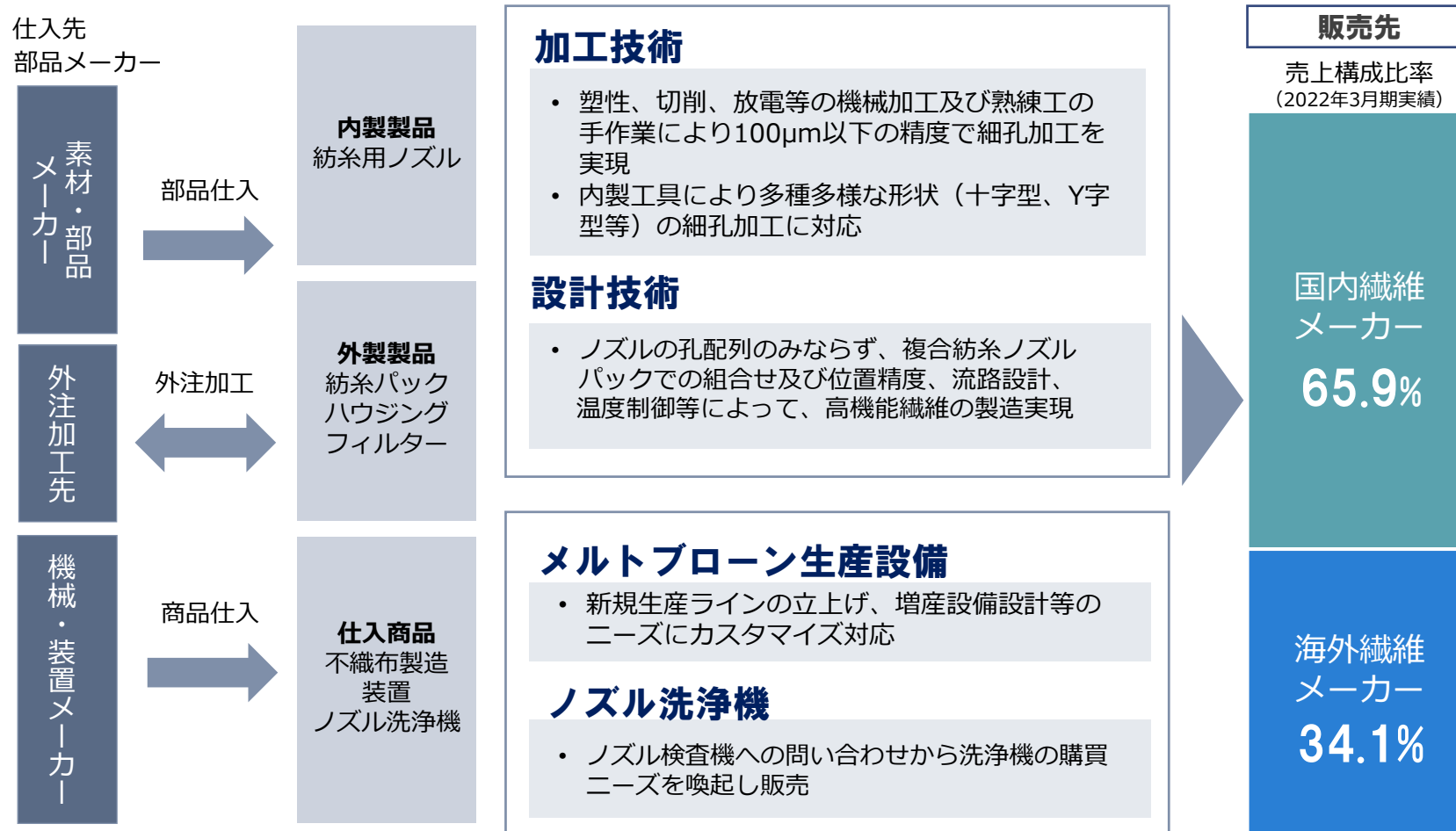


спанレース用ノズル    спанレース用ホルダー    メルトブローン用ノズル



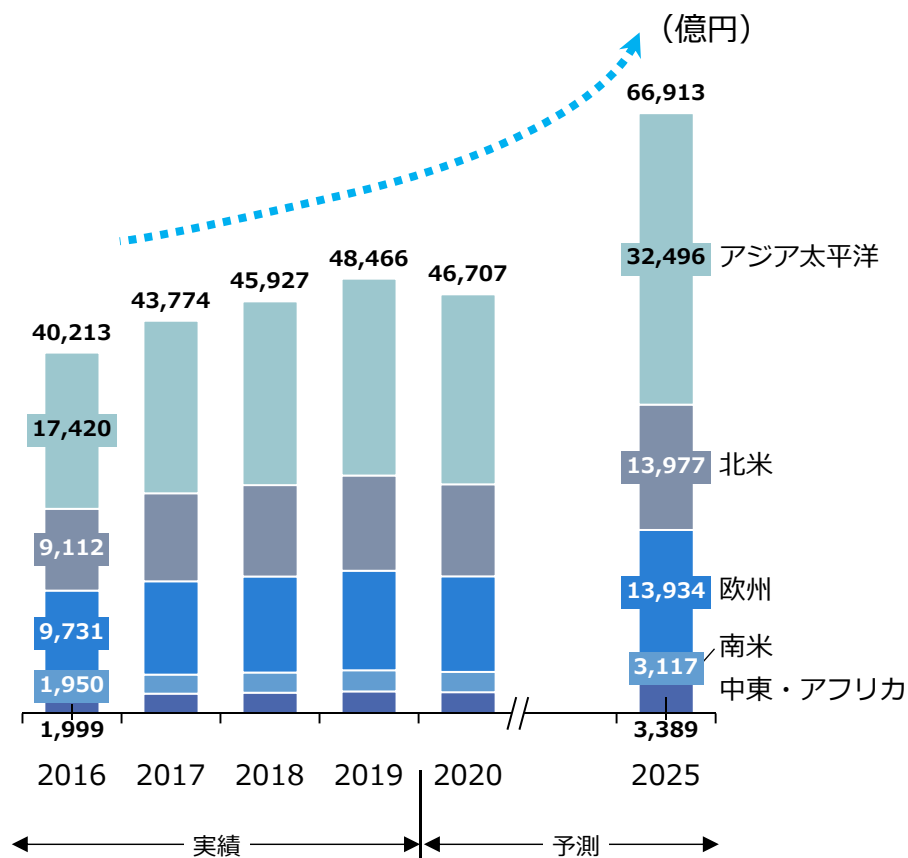
加工の寸法精度、孔の配列方法や流量配分等がコア技術。  
内製工具による精密細孔加工で製造した紡糸用ノズル及び周辺製品を繊維メーカーに販売。

日本ノズル バリューチェーン

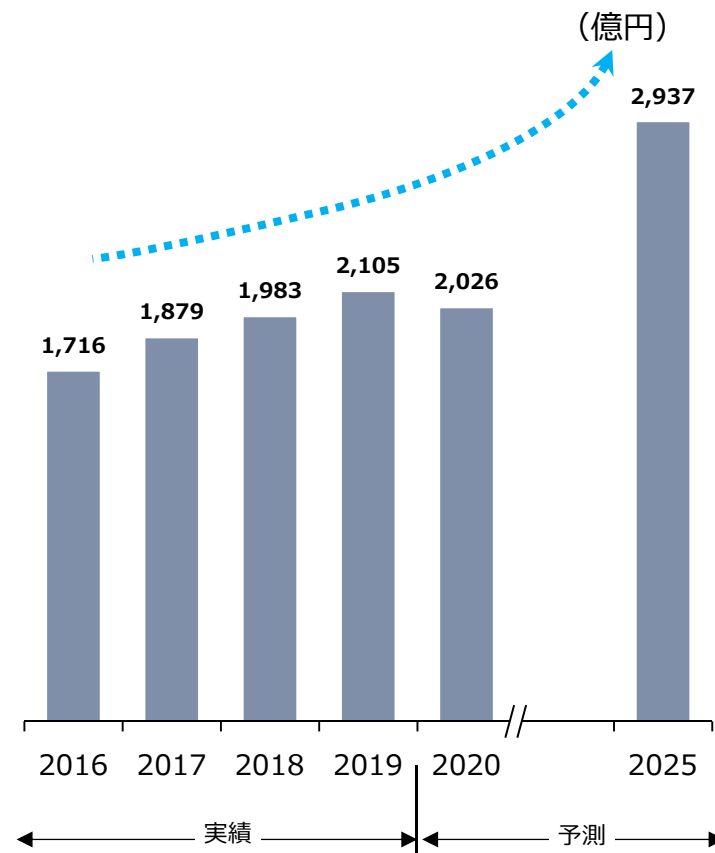


足元はコロナ影響による医療用途での需要、中長期的には建設、自動車用途での需要拡大により成長が予想される

世界の不織布市場規模の推移\*1



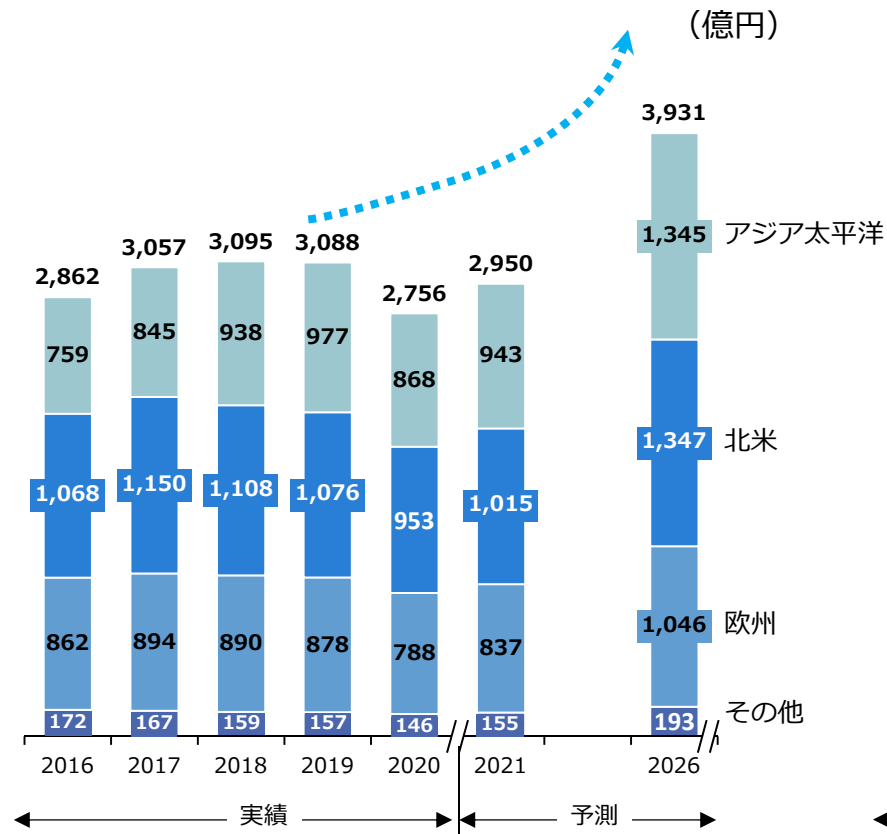
国内の不織布市場規模の推移\*1



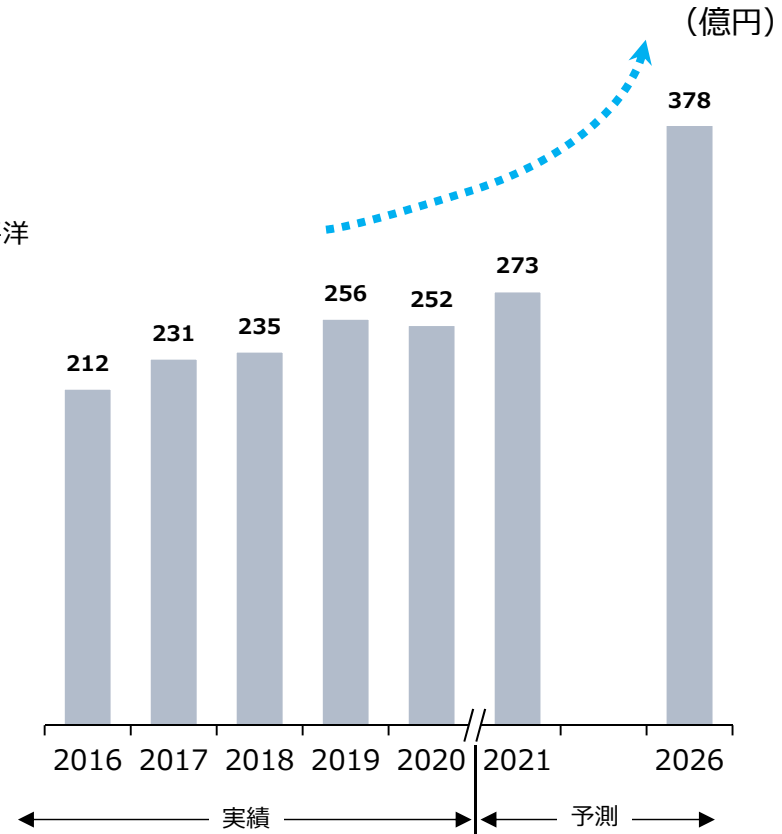
\*1: Mordor Intelligence Global Non-woven Fabric Market - Growth, Trends, and Forecast (2020/9)  
 ※USドルを2020年までは各年平均レート、2021年以降は2020年平均レートで日本円換算

コロナ影響により航空機需要が大幅減の一方で、医療向けや風力発電向け等新たな需要拡大もあり、市場成長が見込まれる

世界の炭素繊維市場規模の推移\*1



国内の炭素繊維市場規模の推移\*1



\*1: Mordor Intelligence Activated carbon fiber market (2020/8)  
※USドルを2020年までは各年平均レート、2021年以降は2020年平均レートで日本円換算

高付加価値型のノズルへの対応力を活かし顧客を取り込む  
競合先が模倣できない技術のもと、業界内での安定した立ち位置を維持



創業90年を超える化学繊維用紡糸ノズル専門メーカーとしての技術力（業界トップクラスのシェアを占有）

全てのノズルが製造可能であり、特定分野（たばこフィルター等）では寡占的シェアを確保

メルトブローン不織布製造に関する高い技術力

高機能繊維用ノズルに関する高い対応力

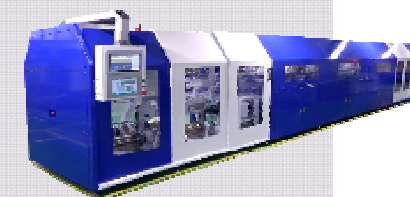
工具内製による高精密加工技術

## 新たな取り組み

✓ 半導体向けダイヤモンドワイヤ販売



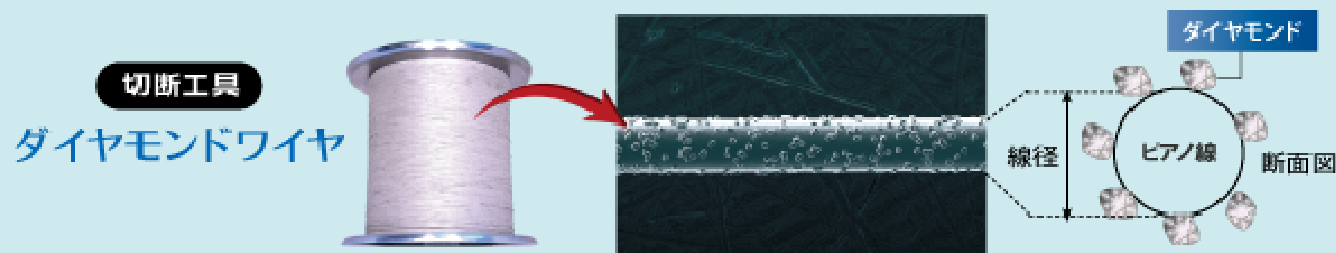
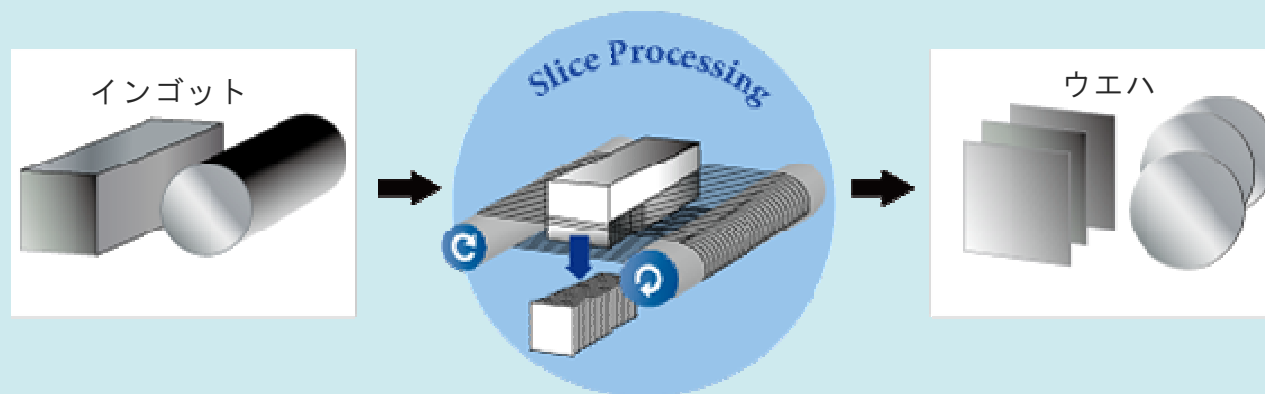
✓ 新型ダイヤモンドワイヤ製造装置販売






## 半導体向けダイヤモンドワイヤの販売

### 半導体や難削材のスライスに特化したダイヤモンドワイヤの開発



難削材メーカーにおいて正式採用を実現  
半導体メーカー等への正式採用に向け、サンプル評価を実施

## 新型ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売



**PHX-01**  
Technology by Nakamura Choukou

2021年3月より商談開始

特 長	
4列同時生産	業界最小線径 30 $\mu$ m対応可
生産速度 40m/min	ダイヤモンド粒数の自動制御

### 画像認識装置

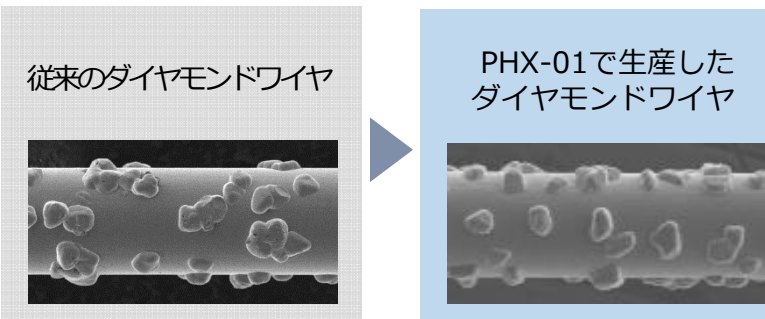
高精度CCDカメラが4列すべてのワイヤを検査



独自のフィードバック  
ダイヤモンド粒数を列ごとに自動制御

→ 同一品質のダイヤモンドワイヤを4列同時生産

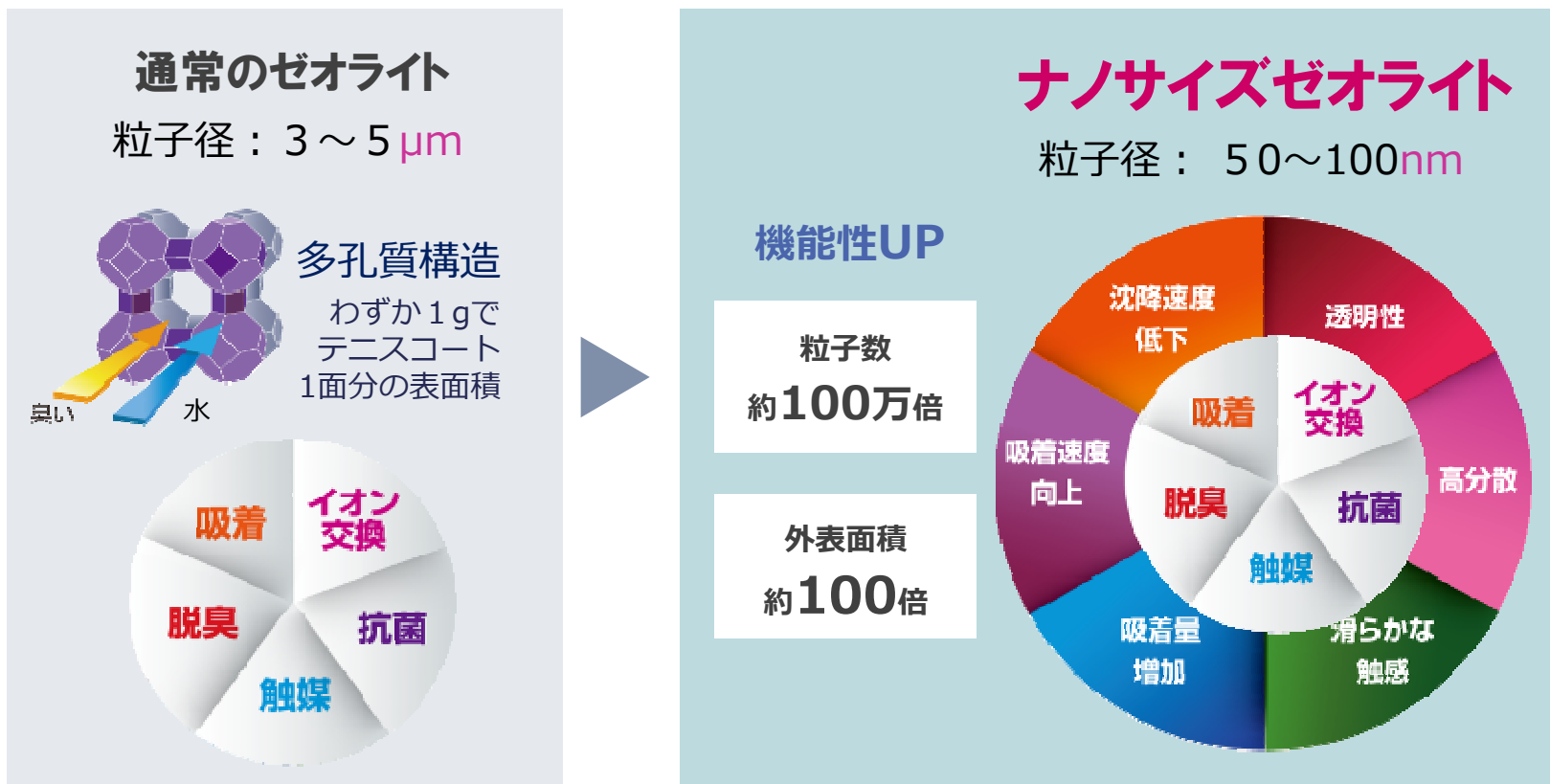
### 高密度・高分散のダイヤモンドワイヤを高速生産



従来のダイヤモンドワイヤ

PHX-01で生産した  
ダイヤモンドワイヤ

## ナノサイズ化により、機能性を高め、様々な用途での利用へ

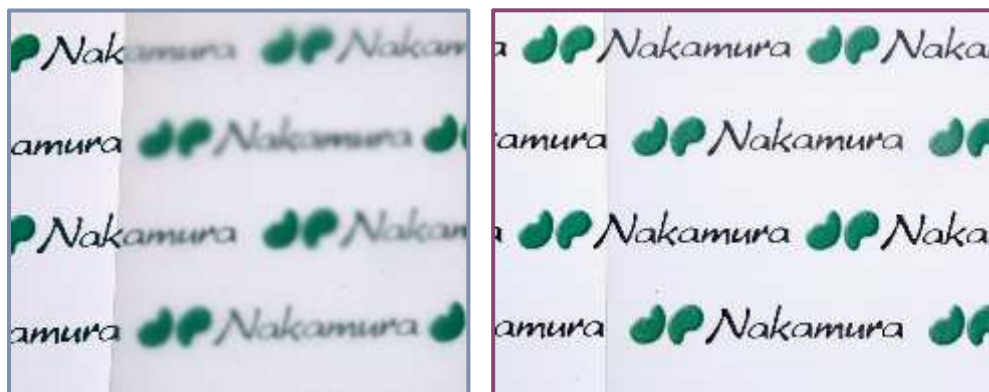


東京大学との共同開発  
特許取得済 / 粉碎・再結晶化プロセス

低コスト化を実現

### 透明吸湿フィルム

当社開発 1年前のフィルム



✓ 高い吸湿性

ナノサイズゼオライトの  
添加量の増加

✓ 高い透明度

ナノ粒子の均一な分散  
条件の獲得

添加量  
(wt%)

10%



45%

透明度  
(ヘイズ値)

20~30



8~15

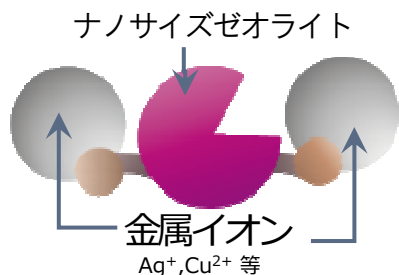
で改善

高濃度・透明

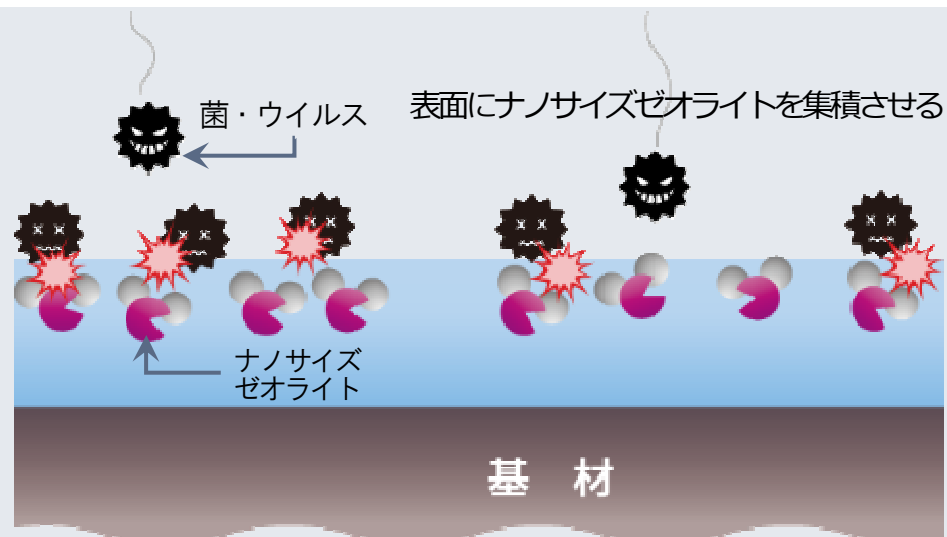
一部メーカーで開発ステージから事業化ステージへ移行  
エンドユーザーへのサンプル供給を実施

抗菌・抗ウイルス機能付き 透明コーティング剤

ナノサイズゼオライトへの  
抗菌・抗ウイルス性能の付与



強固に結合 & 長寿命

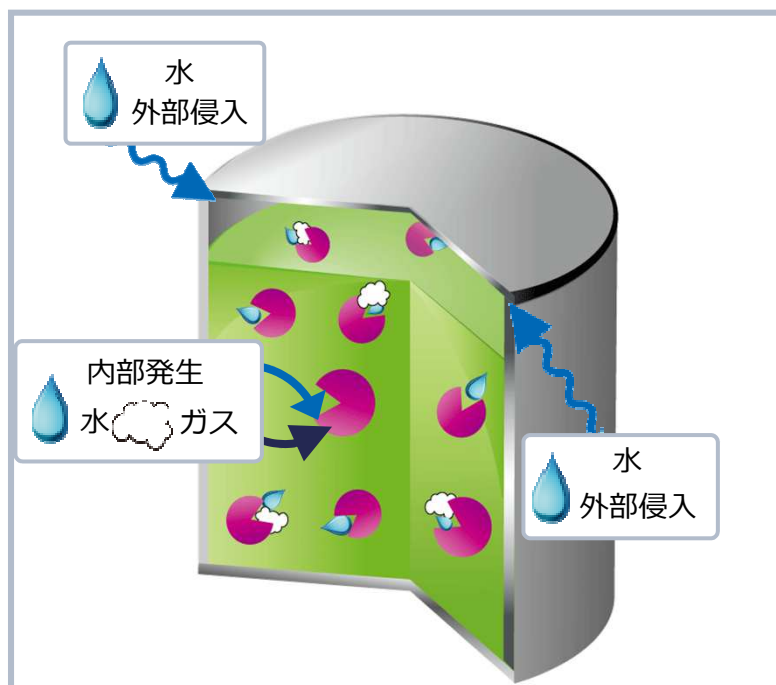


- ✓ 少ない添加量においてコーティング表面で効果的に機能を発現
- ✓ コーティング面の平滑とコーティング層の透明・薄型化を実現

知的財産としての技術確立を目指す

複数のコーティング剤と金属イオンの組み合わせで実証試験中  
サンプル出荷量も増加傾向

## 接着剤・塗料の吸湿用添加剤



- ✔ 使用期限の延長（長寿命化）
- ✔ 高品質化（高強度・高品位）

- ① ナノサイズゼオライトを接着剤・塗料に均一に拡散させて混練する技術の獲得
- ② 水分の影響により内部発生するガスも吸着できる条件の開発

大手化学メーカーで開発ステージから事業化ステージへ移行  
エンドユーザーへのサンプル供給を実施

## メーカー・商社と連携したBtoC商品

 <p>クレンジング      シェービング</p> <p>ナノサイズゼオライト + 水分</p>  <p>温      感</p>	 <p>石 鹸      シャンプー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 加齢臭の吸着 (ノネナール)</li><li>✓ アンモニア臭の吸着</li></ul>	 <p>入浴剤      芳香スプレー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ ナノサイズゼオライトに吸着させた有効成分を徐々に放出</li></ul> <p>薬効・美容・芳香成分</p>
<p>発熱反応</p>	<p>ガス吸着</p>	<p>徐放性</p>

展示会などを通じ、様々な分野の顧客開拓に努めてまいります

✓ 設置の目的

ナノサイズゼオライトの事業化に向けた量産スケールでの生産検証を実施

✓ パイロットプラントの概要

所在地	大阪府和泉市あゆみ野2-1-3（当社和泉工場内）
投資総額	約4.1億円
生産キャパシティ	約1.2トン／月

本格稼働に向けた製造工程の検証・試運転を実施中

ナノサイズゼオライトの早期事業化に取り組む



## ✔ パイロットプラントの風景



## 4. 成長戦略

## 1. 既存事業の安定的な拡大

### 特殊精密機器事業

- ・ サプライチェーン変革に伴う当社の総合的な対応力による優位性を活かした販売強化
- ・ コロナ後の世界的な経済の回復基調にある市場環境を背景にした販売強化

### 化学繊維用紡糸ノズル事業

- ・ 炭素繊維市場の拡大に伴う紡糸ノズルの販売拡大
- ・ 不織布製造装置の販売強化、機能性不織布の市場開拓

## 2. 新規事業開発の事業化

### 電子材料スライス周辺事業

当社保有技術を活かした

- ・ 半導体向けダイヤモンドワイヤの販売
- ・ 新たなダイヤモンドワイヤ製造装置の販売

新たな収益モデルの構築

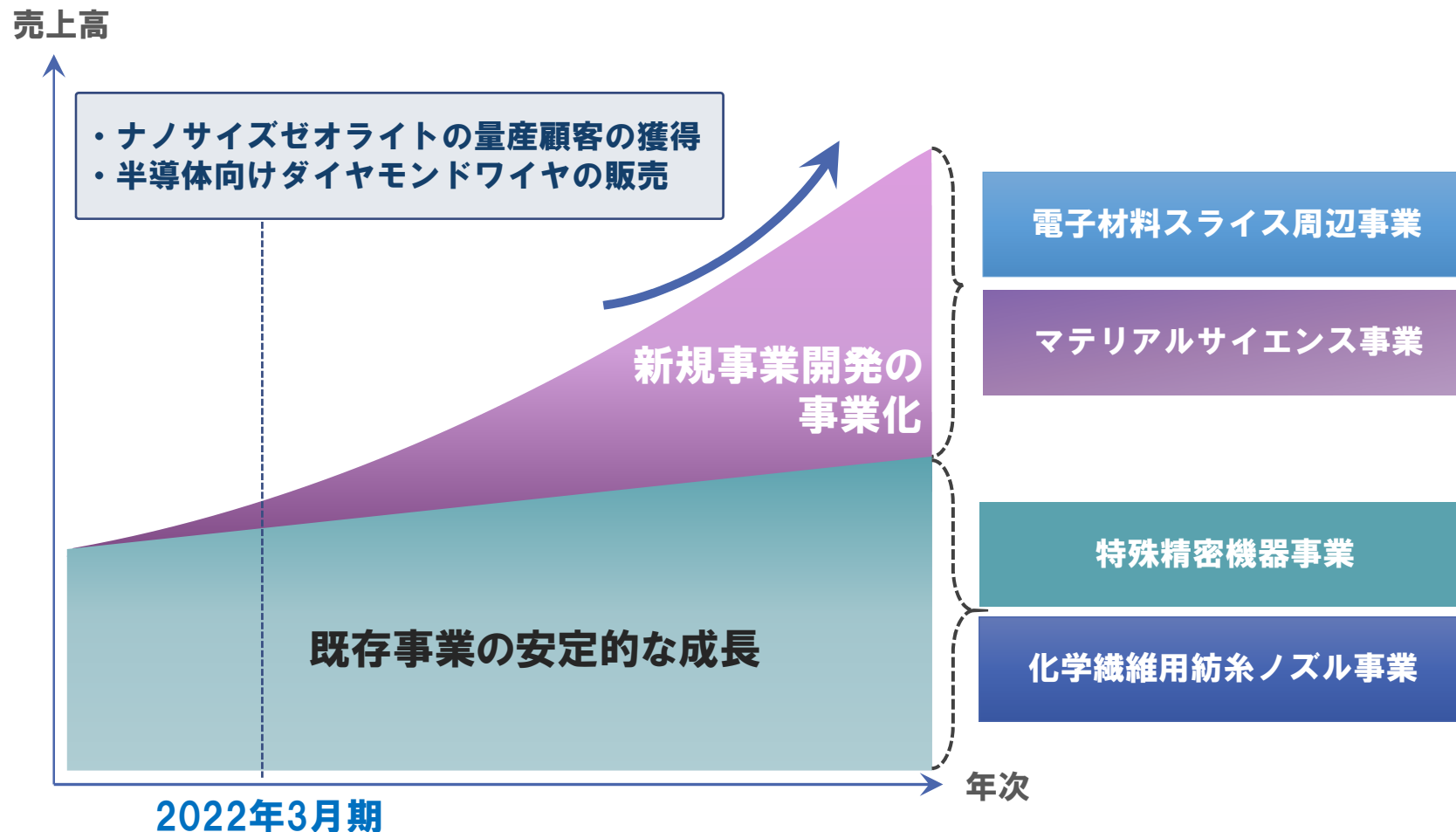
### マテリアルサイエンス事業

- ・ 開発ステージから事業ステージに移行している顧客における本格的な販売を目指す
- ・ パイロットプラントでの量産検証

量産化・事業化をスタート  
新たな収益の柱として期待

## 中期的な成長イメージ

既存事業である特殊精密機器事業・化学繊維用紡糸ノズル事業の安定的な成長に加え、新規事業開発として取り組んでいるナノサイズゼオライトの事業化や半導体向けダイヤモンドワイヤの販売・新型ダイヤモンドワイヤ製造装置の販売などにより、事業規模・収益の拡大を目指してまいります。



- **売上高** : 事業の規模、成長性を確認する指標
- **売上高営業利益率** : 収益性を確認する指標

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (計画)
売上高	2,797	3,806	4,038	3,700
売上高 対前年増加率	△41.8%	36.1%	6.1%	△8.4%
営業利益	△578	167	311	240
営業利益率	△20.7%	4.4%	7.7%	6.4%

# 進捗状況 2022年3月期 連結PLサマリー

(単位：百万円)

	2021年3月期 (実績)	業績予想 (21年10月修正時)	2022年3月期 (実績)	対前期 増減額
売上高	3,806	4,100	4,038	232 (+6.1%)
営業利益	167	200	311	143 (+85.9%)
経常利益	181	200	338	156 (+85.9%)
当期純利益	7	△350	△257	△264



## 特殊精密機器事業

売上 **922**百万円 (前期比 +20.0%)

利益 **115**百万円 (前期比 +173.3%)

### ✓ 工作機械向け耐摩工具

自動車関連産業の回復遅れの影響により  
厳しい受注環境が継続

低調に推移 →

### ✓ 産業機械向け実装機用ノズル

「5G」関連分野が市場をけん引

好調に推移 ↗

### ✓ セグメント利益

製造現場における製造コスト削減や  
経費削減の徹底

## 化学繊維用紡糸ノズル事業

売上 **3,003**百万円 (前期比 Δ0.7%)

利益 **678**百万円 (前期比 +5.3%)

### ✓ メルトブローン不織布製造装置及び 不織布関連ノズル等

堅調に推移 →

### ✓ 風力発電用ブレード向けノズル

好調に推移 ↗

### ✓ セグメント利益

- ・不織布製造装置案件が順調に検収
- ・製造現場における製造コスト削減や  
経費削減の徹底

## 電子材料スライス周辺事業

売上 **69**百万円 (前期比 +1,271.2%)

利益 **△383**百万円 (前期比 +26百万円)

### ✓ 半導体向けダイヤモンドワイヤの販売

- 量産採用された顧客数は徐々に増加
- 新たな顧客獲得のための  
サンプル出荷を継続

### ✓ ダイヤモンドワイヤ製造装置 (PHX-01)の販売

- 新たな顧客獲得のための  
サンプル出荷を継続
- 現時点において複数顧客との商談を継続中

## マテリアルサイエンス事業

売上 **42**百万円 (前期比 +412.6%)

利益 **△142**百万円 (前期比 +13百万円)

### ✓ 製品開発について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により  
顧客における製品開発進捗に遅れが発生

案件は進捗しているものの  
サンプル提供が中心

### ✓ パイロットプラントについて

- 計画通り2022年3月末に設置が完了
- パイロットプラント立ち上げに係る  
山全社からの受託収入の計上



# 2023年3月期 連結業績予想

2022年4月1日～2023年3月31日

(単位：百万円)

	第2四半期（累計）			通 期		
	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前年同期比	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	前年同期比
売上高	1,832	1,700	△7.2%	4,038	3,700	△8.4%
営業利益	101	40	△60.6%	311	240	△23.0%
経常利益	100	30	△70.1%	338	230	△32.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△51	△50	—	△257	50	—

✓ 事業戦略

1. 国内外でのサプライチェーン変革による新たな需要の取り込み
2. 自動車・半導体製造装置分野での顧客開拓

✓ 足元の事業状況

- i. 半導体不足の影響により、全般的に受注ボリュームが減少
- ii. 大手顧客からの新規アイテム受注が増加
- iii. 大手メーカーからのOEM案件が増加

売上高  
通期見通し

950百万円 (前年同期比+2.9%)

✓ 事業戦略

1. 不織布製造装置及び不織布関連ノズルの安定受注
2. 受注が好調な風力発電用ブレード向け  
炭素繊維用ノズルの売上拡大
3. 新工場稼働に向けた大型部品加工関連市場の開拓

✓ 足元の事業状況

- i. 炭素繊維用ノズルをはじめ  
各用途向け紡糸ノズル全般において引き合いは活発
- ii. 医療用途における不織布製造装置案件の商談展開

売上高  
通期見通し

2,400百万円 (前年同期比△20.1%)

✓ 事業戦略

1. ダイヤモンドワイヤ**製造コスト**を理論限界値まで**極小化**
2. **パワー半導体用**ウエハ(SiC、窒化ケイ素)市場に  
**オンリーワン製品**を展開
3. 太陽電池、半導体**サプライチェーン**の**大変革**が好機

ダイヤモンドワイヤ及び  
ダイヤモンドワイヤ製造装置(PHX-01)の販売拡大

売上高  
通期見通し

**250**百万円 (前年同期比+258.0%)

✓ 技術開発トピックス

▶ 市場ニーズ **パワー半導体市場でのコスト低減要望が拡大**

<現状のスライス加工>

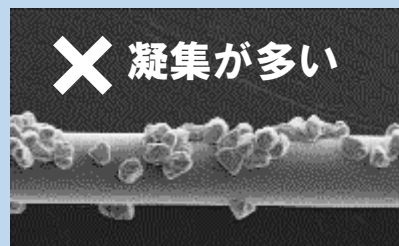
遊離砥粒方式が主流 .....▶ 生産速度が遅く、材料歩留まりも低い

**固定砥粒方式(ダイヤモンドワイヤ)に転換**

▲ 技術的課題

SiC、窒化ケイ素は難削性が高く、大径ダイヤが必要  
⇒ 従来技術では大径ダイヤの採用が困難

当社は独自の**砥粒分散技術**を新たに開発



**砥粒凝集を解消**

大径ダイヤ砥粒を  
安定的・強固・均一に固定

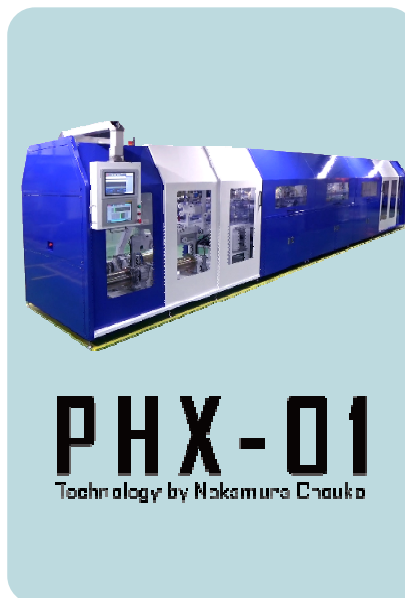
 **オンリーワン技術**

## ✔ ダイヤモンドワイヤ製造装置(PHX-01)の販売戦略

### ▶ PHX-01の優位性

- ・超コンパクト構造
- ・独自砥粒分散技術

ダイヤモンド砥粒・メッキ液  
使用量の極小化



### 独自の解析技術

- ・メッキ槽内のダイヤモンド濃度
- ・ダイヤモンド砥粒付着状態

・ダイヤモンド砥粒の  
オンデマンド供給  
・無人長距離生産  
を実現

### ▶ ターゲットとするダイヤモンドワイヤ生産市場

- ① 太陽光発電シリコンウエハ ⇒ 中国、インド、米国、欧州
- ② 半導体シリコンウエハ ⇒ 中国、日本、韓国、米国
- ③ パワー半導体ウエハ ⇒ 中国、米国、東アジア

✓ 中核事業戦略

1. 各用途分野において事業開始に向け着実に進捗させる

▶ 用途分野別進捗計画

→ 2022年3月期実績    .....▶ 2023年3月期目標

主な用途分野	初期開発	本格開発	市場評価	事業開始
封止剤, 接着剤分野 (電子デバイス吸湿)	●————→.....▶			
フィルム, 包材分野 (透明, 吸湿, 吸臭)	●————→.....▶			
コーティング分野 (透明, 抗菌, 抗ウイルス)	●————→.....▶			

Nano-sized Zeolite  
**Zeoal**<sub>株</sub>

封止材



塗料・接着剤



薬包材



コーティング剤



2. パイロットプラント立ち上げに係る山全社からの  
受託収入を計上(第1四半期)

売上高  
通期見通し

**100**百万円 (前年同期比+137.4%)

## ✓ 技術開発トピックス

- ▶ 市場ニーズ
1. 超微量の湿気を吸収する薬包用透明吸湿フィルム
  2. 有機ELの寿命を大幅に伸ばす透明吸湿コーティング
  3. 悪臭を外部へ漏らさない透明脱臭フィルム

### 技術的課題



- i. 樹脂材料に混ぜる際の凝集発生
- ii. 生産プロセス中におけるナノサイズゼオライトの吸着能力低下

ナノサイズゼオライトに対する表面処理の最適化を実現

## ▶ 開発効果 樹脂材料への添加性を大幅に改善

透明吸湿フィルム/透明吸湿コーティング/透明脱臭フィルム

パフォーマンス(透明性・吸湿性・脱臭性)



エンドユーザーにおける評価が大きく進捗





# Appendix

主要なリスク	顕在化の可能性・時期	顕在化した場合の影響度	対応策
<p style="text-align: center;"><b>江蘇三超社との仲裁に関するリスク</b></p> <p>中国の江蘇三超社に対するダイヤモンドワイヤ生産設備等の譲渡案件について、当社所有のダイヤモンドワイヤ生産設備の譲渡及びダイヤモンドワイヤ製造に関する技術供与に係る契約に関し、同社より2021年11月17日に当社の契約義務の履行がなされなかったとして、本件契約を解除するとともに損害賠償請求する仲裁申立がシンガポール国際仲裁センターになされました。当社としては、本件契約の義務の履行は完了しており、同社の主張する契約解除事由には該当しないと考えており、今後の仲裁手続きを通じて当社の正当性を主張するとともに、同社に対し本件契約代金の未払い額の請求を行っておりますが、本仲裁において、当社が敗訴となる判決が出た場合、当社グループの業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p style="text-align: center;">低/ 当期・来期</p>	<p style="text-align: center;">大</p>	<p>本仲裁において、当社主張の正当性を訴えてまいります。</p>
<p style="text-align: center;"><b>新規事業の事業化に関するリスク</b></p> <p>当社は、新規事業として、ナノサイズゼオライトの開発に取り組んでおり、2019年7月に国立研究開発法人科学技術振興機構から本開発に対する成功認定を受け、現在、サンプル提供先企業において製品化に向けた開発を進んでおり、一部の企業においては開発ステージから事業ステージへ移行しております。また、ナノサイズゼオライトの事業化に向け、パイロットプラントの設置を進めておりましたが、2022年3月末までに完了しております。</p> <p>しかしながら、サンプル提供先企業における開発に更なる時間が必要であることが見込まれる場合や、将来的に量産顧客の獲得が実現できなかった場合は、当事業における固定費負担が継続することとなることととも事業化の蓋然性等を考慮しなければならず、その場合、当社グループの業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p style="text-align: center;">中/当期中</p>	<p style="text-align: center;">中</p>	<p>展示会などを通じ新規顧客の開拓に努めるとともに、サンプル提供先企業に対する継続的なフォローを行うなど、事業化に向けて取り組んでおります。</p>

主要なリスク	顕在化の可能性・時期	顕在化した場合の影響度	対応策
<p><u>借入金返済に関するリスク</u></p> <p>当社グループは、2019年3月期に債務超過となりましたが、事業撤退や工場売却等の構造改革を進めるとともに、大規模な資金調達を実施した結果、2020年3月期において債務超過は解消し、その後、2020年4月より金融機関に対して新たな返済計画に基づき返済を開始しております。金融機関等からの借入残高も2022年3月末時点で2,737百万円まで減少しておりますが、金融機関と同意した返済計画は1年単位であり、現時点では、2023年3月までの同意となっており、2023年4月以降の返済方法については改めて協議することとしております。</p> <p>当社としては、取引金融機関と緊密な関係を維持できていることから、継続的な協力は得られると考えておりますが、「江蘇三超社との仲裁に関するリスク」が顕在化した場合や将来の返済計画に対し金融機関の同意を得られなかった場合、当社グループの業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>低/中長期</p>	<p>中</p>	<p>当社としては、取引金融機関と緊密な関係を維持できていることから、継続的な協力は得られると考えております。</p>

主要なリスク	顕在化の 可能性 ・時期	顕在化した 場合の 影響度	対応策
<p><u>海外取引の拡大に関するリスク</u></p> <p>当社グループの連結売上高に占める海外販売の比率は、当連結会計年度において34.1%と高く、当社グループが扱う製品の市場動向を鑑みると、今後も海外志向は強まっていくものと考えております。そのため、当社グループでは、取引慣行の違いによるトラブルを未然に回避するため各種契約に係る法務チェックを強化するとともに、債権回収の安全を図るため前受金の割合を高める等、与信管理を徹底しております。また、他にも地政学的要因などにより、海外での営業活動や製品の出荷に影響が出る可能性があります。</p> <p>海外取引においては予期せぬトラブルが発生する可能性があり、これらのトラブルが顕在化した場合、当社グループの業績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。</p>	<p>低/不明</p>	<p>大</p>	<p>取引慣行の違いによるトラブルを未然に回避するため各種契約に係る法務チェックを強化しております。</p> <p>また、債権回収の安全を図るため、前受金の割合を高める等、与信管理を徹底しております。</p>

※その他のリスクについては、2022年6月に開示する第52期有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載いたします。

- 本資料に掲載している情報は、株式会社中村超硬（以下、当社）の経営指標等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。また、本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に掲載している情報に関して、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わず一切責任を負うものではありません。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。
- 本資料のアップデートは、通期決算の発表時期（2023年5月予定）を目途として開示を行う予定です。

株式会社中村超硬

大阪府堺市西区鶴田町27-27

TEL.072-274-0007（代表）